

○優先テーマ枠（「気候変動×防災」）

課題名	技術開発 代表事業者	共同事業者	概要
食品加工残渣を活用した RE100 分散電源に関する 技術開発	(株) 日立製作所	日清食品ホールディングス(株) (大) 山口大学 (大) 九州大学 (株) エフ・シー・シー	食品産業分野では CO2 排出量の削減と食品廃棄物の削減が重要な課題となっている。本事業では、カーボンニュートラルな分散電源と食品加工工場を中心とした循環型システムの実現に向け、工場内で発生する食品廃棄物からエタノールなどのバイオ燃料を製造するシステムと、そのバイオ燃料を活用する低コストで応答性に優れた発電システムを開発し、これらを合わせた低コストで運用できる RE100 オンサイト発電システムパッケージの構築を目指す。

○ボトムアップ型分野別技術開発・実証枠

課題名	技術開発 代表事業者	共同事業者	概要
副産物の有効活用による グリーン水素サプライチ ェーン構築に向けたシス テム開発	アサヒプリテック(株)	エフシー開発(株) (株) X-Scientia 三井住友信託銀行(株)	脱炭素社会の実現のためには、長期的なエネルギー貯蔵手段としてグリーン水素の活用が重要である。グリーン水素の普及に向けては、その製造原価を数分の一以下へと低減し、経済性を高めることが必要である。本事業では廃棄物発電所における未利用電力を活用し、水素と高付加価値の副産物を併産する製造技術を開発、性能向上を図ることで、水素の製造原価を大幅に低減する併産型水素製造システムを開発する。これにより経済合理的なグリーン水素のサプライチェーンの早期実現を目指す。
エッジデータセンター 向けのサーキュラー型蓄 電システムの技術開発	(株) リコー	—	今後分散型データ基盤としてエッジデータセンターの普及拡大が見込まれるが、反面その消費電力の増大が課題となる。グリーンデジタルの促進には PV と蓄電池を合わせた安価な再エネ発電システムの実現が重要であるところ、使用済み車載電池(LIB)の再利用は蓄電池の低コスト化に有効である。本事業では HV と EV の電池を組合せ、再エネ利用における課題である出力の急変に対応できる安価な組電池技術を開発することで、再エネ利用を促進し、CO2 排出量削減に貢献する。

※上記は採択時の状況に基づく内容であり、評価委員会の指示等により内容に変更が生じることがあります。